プリンセス
小公女セーラ

第6話

『灰かぶりベッキー』

AR台本

企　画
制　作　日本アニメーション株式会社

プ リ ン セ ス

小 公 女 セ ー ラ

第六話　『灰かぶりベッキー』

登場人物

セーラ…………島本須美
ミンチン先生…………中西妙子
アメリア…………梨羽由起子
ピーター…………坂本千夏
マリエット…………高木早苗

アーメンガード……八百板万紀
ロッティ……渡辺菜生子
ベッキー……
ジェームス……郷里大輔
モーリー……向殿あさみ

カメラ	画面		音声
	タイトル「灰かぶりベッキー」		
1	院長の書斉 cut・in デスクに積まれた封筒 その上にもう一つ封筒がのせられる		
2	一通をとり上げて、封筒から手紙を出して、手紙を読むミンチン先生		
3	読み続けるミンチン先生		S・E（トントン）
4	手紙の一枚目を後ろに（振りかえらず） C－2同ポジ		ミンチン先生「お入り……」
5	アメリア、入ってくる		
6	ミンチン先生、手紙を読み続ける アメリア、立ちよって、手		

	を前で組む ミンチン先生、アメリアを見る 手は、手紙を二つに折って、手紙を封筒に入れ 脇の束と一緒にアメリアに渡す アメリア、受け取る ミンチン先生、右手奥に手を伸ばして、本を手にとる	アメリア「お呼びでしょうか、お姉様……」 ミンチン先生「生徒達が親許に出す手紙です」 ミンチン先生「全部眼を通しましたが、別に問題はないようです……封をして出しておくように」 アメリア「はい……」
7	本を開くミンチン先生	
8	ミンチン先生、眼鏡をチョッと上げる 顔上げて見るミンチン先生 顔を戻す、固い表情	アメリア「あのォ……」 アメリア「セーラさんに頼んでもよろしいでしょうかしら」 ミンチン先生「なぜ、あの子に……」
9	アメリア	アメリア「馬車がありますし、休み時間に行って貰えばその方が早いと (off) 思いまして……」 （チョット間）
10	ミンチン先生 ユックリと顔を上げる	ミンチン先生「アメリア……」

11	ミンチン先生、顔戻し ミンチン先生、微笑		アメリア「は……」 ミンチン先生「あの子にだけ特別に外出の機会を増やしてあげようとしてるのじゃないでしょうね」 アメリア「い、いえ、そんな……」 ミンチン先生「ま、それでも結構……」
12	ミンチン先生、立ち上がる 窓の方へ歩く		ミンチン先生「あの子は大事な生徒ですからね ～～～
13	立ち止まって		―間― 外出を許可します」
14	手紙を胸にホッとするアメリア 軽く会釈を、くるりと振り返り 扉口の方へ歩む		アメリア「はい、お姉様」
15	外を見つめるミンチン先生 ちらりと後を意識して　又、外 を見つめる		
16	教室の生徒とデュファルジュ先 生（デュファルジュ先生左右に		

	動いている）		S・E（（鐘の音）カランカラン）
17	教室の戸が開いて、デュファルジュ先生、教科書を手に出てくる　その後からラビニア、ガートルート、ジェシーが一団となって出てくる		
18	右手前にペチャクチャと喋りながら　セーラとセーラにくっついたロッティ、アーメンガード出てくる ロッティ、走って、セーラにまとわりつく 振り向く		ロッティ「セーラママー！」 アメリア(off)「セーラさん」
19	アメリア、手に封筒の束を持って足早やに来る		
20	アメリア、近寄って		アメリア「セーラさん、これを出して来ていただきたいの。院長先生には、お許しをいただいてありますからね」

			セーラ「はい、アメリア先生」
21	ロッティ、セーラの手をとって アメリアを見て		ロッティ「ああー、私もセーラママと一緒に行きたいよォ……」 セーラ「ロッティ……」 セーラ「あの、ロッティも連れていっていいでしょうか?」
22	アメリア、セーラからロッティに視線をおとす		アメリア「そうねぇ」
23	返事によっては泣きわめくぞ!という顔で、見上げているロッティ		
24	アメリア、顔上げて……		アメリア「また、泣かれると困るし……院長先生にはそう伝えておきますわ」
25	ロッティ、喜こんで飛びはねると　セーラの身体のまわりを廻って　アーメンガードにとびつく		ロッティ「ワーイ　ワーイ　ワーイ!」

26	アメリア、セーラの肩に手をかけて　アメリア、あたりを見て奥へセーラを連れていく	アメリア「それから、もう一つお願いがあるの」 セーラ「は……」
27	アーメンガードとロッティ?…と見る	
28	アメリア、身をかがめて	アメリア「今、フランス製の新しい香水入りの化粧石鹸が出ているのよ、一つ買って来て下さらない」 セーラ「はい、香水入りのフランスの化粧石鹸ですね、判りました」 アメリア「シーッ！」
30	ピーターがジャンプの背をこすっている　ピーター、振り向く	マリエット「ピーター」
31	マリエット、入口に立っている	マリエット「お嬢さまが先生のお使いでお出掛けよ、急いで馬車を用意して」
32	ピーター　と前へ	ピーター「はーい、判りました！」

33	ピョンと腕木にとりついて、クルッと前方回転 ジャンプに ジャンプ		ピーター「さア、ジャンプ出番だぞ！」 S・E　(ブヒヒヒ……)
35	玄関の前 セーラ、ロッティのフードを直してやっている 馬車入ってくる		S・E　((馬車の音)～～～～)
36	ピーター、馬車止める		セーラ　「ありがとピーター、さ、ロッティ乗って」
37	馬車にロッティ 後からセーラが乗り込む 走り出す		ロッティ「(足ばたばたやりながら) わあい、私、セーラママの馬車にのるのはじめてよ」
38	馬車、走り出して↘		
39	玄関の踊り場 出てくるラビニア、ジェシーが口惜しそうに見送る（目線右よ		

	り正面）		
40	馬車・奥の角を右に曲っていく		
41	見送るラビニアとジェシー		「（舌打ちする）」
42	街中 馬車が通りすぎて 右手からセーラの馬車がくる ロッティ・顔を出している		
43	↗FOLLOW 嬉しそうにしているロッティ		
44	ロッティ・見た眼の街並が流れる		
45	ロッティ・はしゃぐ　UP FOLLOW→		
46	教会のアオリ ハトが舞って		

47	セーラの馬車来る		
48	馬車		
49	ポストのところFr・inして、馬車止まる セーラ、封筒の束を手に降りる		
50	ポストに二、三通ずつ入れるセーラ		
51	見守るピーター		
52	最后の一束を入れるセーラ くるっと振り向くと手前に		
53	セーラ、馬車に近づき セーラ、のりこむ ピーター、馬車を出す		セーラ「さ、次は石鹼よ」 ピーター「任しといて下さい。石鹼なら飛切り安い店知ってますから」
54	ジャンプの足走り FOLLOW		S・E（ポコポコ）

55	ミンチン女学院玄関前 馬車、止まる		
56	セーラ、向う側に降りて セーラ、廻ってくる ピーター、ロッティをおろしてやる		セーラ「ピーター、ありがとう」 ロッティ「ピーター、ありがとう」
57	ピーター、チョッと照れて帽子のつばに手をやって		ピーター「い、いや」
58	セーラとロッティ、玄関の方へ		セーラ「さ、ロッティ……」
59	階段上がる　ロッティを見ながらの感じ　顔を前に？　と、立ち止まる　ロッティもパチクリ		
60	のぞいているベッキー バックして見上げたり（ベッキー大きなカブとコウモリガサ）		
61	ベッキー		

No.	Action		Dialogue
	よいしょと荷物をひき上げ、キョロキョロ　後ろのセーラとロッティ　顔見合わせ 最后の一段上がる ベッキー、ビクッとして　振り返り	A・C	セーラ　「あの……」
62	ベッキー　暫し…… （ビックリしたのが収まるまで） パッと愛想良い表情になって		ベッキー「こ、こらァ失礼申しやして、お嬢さま……」 セーラ　「……なにか……」 ベッキー「はい………実はちょっくら物をおたずねしたいと思いやしてェ」
63	ペコッと一礼する		
64			
65			セーラ　「ええ、私で判ることならどうぞ」
66	荷物を片手でかかえようとする 傘がおちる　傘ひろって 脇にさしこんで　右手を拡げて		セーラ　「お持ちしましょうか」 ベッキー「い、いや、結構だす」

67	手の中でクシャクシャになった 紙を出す		
68	パチクリのセーラ		
69	セーラ、手をのばして		ベッキー「この紙に書いてある家け、おたずね したいんですが……」
70	紙をとってひろげる ピーター、来る ベッキー、再び荷物を両手でか かえなおしている セーラ、やュと紙をひろげ終る		ピーター「あれ！」
71	走り書きの文字		セーラ　「まァ、ミンチン女学院なら、ここよ 〜 ここよ」
72	ベッキー 振り返って見上げる		ベッキー「ひゃー、ここがわだすのたずね場所 ですけぇ」
73	建物を眺める		ベッキー「フーン」
74	ピーター、こらえるがクククー		

	と笑い出す		
75	ピーター、指さす ベッキー、見る		ピーター「ほら、あそこの札にちゃんと書いて あるだろ」
76	戸口の表札		ピーター「（笑い声）」 セーラ　「（笑い声Wって）」
77	笑うピーター、セーラ、ロッティ		「（ロッティも笑い出す）」
78	ベッキーも振り返って、笑い出す		
79	一同笑う ベッキー、笑いやめるとシュン となる		ベッキー「だども……わだす、字、読む事、習 ってねえから……」
81	思わず顔を見合わせ ピーター、すまなそうに帽子を ずりおろす		
82			ベッキー「わだす……ここの偉い人に逢えって

			いわれたス」
83	セーラ、微笑して と前へ出る		セーラ　「院長先生ね、案内してあげるわ」
84	セーラ、近寄る		ベッキー「だ、だども……」 セーラ　「さ、どうぞ」
85	ドアあけて中へ		
86	ピーター、帽子のつばを上げて 見送る　??…　首ひねる		S・E　（（ドア閉る音））
87	セーラ、院長室の扉をノックす る　セーラ、ベッキーに頷くと、 ドアを開ける		ミンチン先生(off)「お入り」
89	セーラ、ベッキーを入れる 後ろでドアしめるセーラ ベッキー、緊張して見る		
91	PAN←　ミンチン先生の後姿		

92	ベッキー、ゴックンと唾をのみ込む　セーラ、さっとベッキーの背に手をやる感じ カタッという感じに一歩前へ		
93	カタッカタッと操り人形の足のように硬直したように進む足		
94	カチカチになって進むベッキー		セーラ　「お客さまをお連れしました」
95	振り返る		ミンチン先生「はい、ありがとう」
96	ベッキー、つんのめってドタッ！		
97	ピクッと（音に驚く）　そして、下を見る		
98	荷物の上にお腹をのせて転んでいるベッキー		
99	パッと立ち上がるミンチン先生		ミンチン先生「（完全にキイの狂った声で）なんです、この子は！…」

	慌てて起き上がるベッキー		
100	起き上がって、ペコリとお辞儀をするベッキー（しっかりと、荷物をかかえて）		
101	ミンチン先生、唖然として見るが、キィーッとなって、さっと右手奥へ		
102	ミンチン先生、暖炉の上から鈴をとって振る		ミンチン先生「アメリア！　アメリア！」
103	セーラ、呆気にとられて、ベッキーを見る		
104	ベッキーもセーラを見るがショボンとうつむく		
105	苛々しているミンチン先生ドアの音にキッと振り向く		S・E　（（ドアの音））
106			アメリア「はい、お姉様」

	クルッと振り向く ポカンとしているセーラ ミンチン先生、ジロッ……	ミンチン先生「メイド頭のモーリーを……急いで！」 アメリア「はい、お姉様」
108	うつむいているベッキー	
109	台所の前 アメリア、慌ただしく台所に飛び込んで、モーリーを連れて出てくると、階段上がっていく	
110	ロッティ、見ている その前を素早く通過	S・E　（（ドアあく））
111	モーリー、おそるおそる入る アゴでしゃくって モーリー、見る	モーリー「お呼びでございますか、院長先生」 ミンチン先生「手配しておいたメイドです」
112	ベッキー、モーリーを見る	モーリー(off)「まァ、院長先生のお部屋に入り込んでいましたなんて」

113	ミンチン先生、ツンと 素早く右手に		ミンチン先生「連れて行きなさい！」 モーリー「申し訳ありません」
114	ベッキーの腕を摑んで セーラの前を引っぱっていかれ るベッキー		モーリー「さ、おいで」
116	モーリーに引っぱられて行くベ ッキー		モーリー「さ、急ぐんだよ」
117	セーラ、見送る　撫然		セーラ「…………」 S・E　（（ドアしまる音））
118	ロッティの前を玄関の方へFr・ out　するモーリーとベッキー チョコチョコと出て見送る ロッティ、見送る		S・E　（（扉の開閉音））
120	玄関の踊り場 ベッキーを連れたモーリー 階段をおりる		モーリー「さ、こっちだよ」
121	コトンコトンと降りるベッキー		

	の足		
122	地下へ向かうベッキーとモーリー		
123	ドアあけて、モーリー入っていく		
124	ベッキー　首をすくめる（寒い）		
125	暗々とした地下入口		
126	ベッキー、荷物をぐいっと持ち上げて、また降り出す		
127	降りていくベッキー		
129	セーラ		ミンチン先生「セーラさん」 ミンチン先生(off)「あなたは、この学校の生徒さんです」
130	ミンチン先生、セーラに向かって		ミンチン先生「今後二度と見知らぬ人と言葉を交してはいけませんよ。判りましたね」 セーラ「でも、院長先生、

131	セーラ		あの人、道←に迷って困ってたんです」
132	口答えされて、ムッとする アゴあがる		
133	ツッと椅子の方に、椅子の背に 手をかけて小刻みに震える 奥でミンチン先生とセーラを見 て、オロオロのアメリア セーラはキ然としている アメリア、セーラに近づく		
134	アメリア、セーラを見て		アメリア「（声ひそめて）セーラさん」
135	ホッと吐息ついて、顔を回す 反応小さく、オヤッ		
136	わずかT・U　セーラの手の石 鹸の箱		ミンチン先生(off)「おや、何を買ってきたのです?」
137	アメリアとセーラ、ハッとする と、顔見合わせる		

138	カット頭から近寄って とり上げると包みを拡け出す		ミンチン先生「お見せなさい」
139	マズイ！　アメリア		
140	クンクンと匂いを嗅ぐ ジロリ		ミンチン先生「（低く）アメリア……」
141	アメリア、おどおどと チラとセーラを見る		アメリア「あの、私、お姉様もお使いになると 思って、それでついでにセーラさんに」
142	アメリア、首をすくめる		ミンチン先生「（鋭く）アメリア！」
143	台所の入口 ベッキーの荷物置いてある		S・E　（カシャカシャカシャの音）
144	ジェームス、包丁を金棒でとい でいる（ムッツリと）		←〜〜〜
145	ベッキー、おどおどと見ている		
146	ジェームス、鉄の棒で包丁をと		モーリー「コックのジェームスだよ、挨拶おし」

	いでいる		
147	ペッキー、ペコリと頭下げる テーブルに包丁を置いて 刃を調べながら		ペッキー「ペッキーす、よろしく」 ジェームス「ふむ………… お前どっから来た」 ペッキー「アッシフィールド村ッす」
148	ピーター		ピーター「聞いたことないなァ」
149	また、刃をとぎながら 手をとめて、包丁を振って		ジェームス「ヘッ、アッシュと云や、灰のこった大方、灰だらけのド田舎だろうぜ。ま、俺は人使いの荒い方だ、そのつもりでいな」
150	ペコッとおじぎするペッキー		ペッキー「ハ…ハイ！」
151	モーリー、頷いて正面向いて		モーリー「マリエット、向うに去年やめたメイドの服があるから着せておやり」
152	マリエット 左手前についていくペッキー		マリエット「はい、ペッキー、こっちよ」
153	ペッキー、荷物をもって後を追う		

154	見送るジェームス モーリー、テーブルに近寄って テーブルの上のクッキーをとって て　口に放りこむ 二人、笑って		モーリー「私も、これで少しは楽が出来るよ」 ジェームス「あいつがよく働けばな」 二　人「ハハハ……」←〜〜
155	撫然とするピーター		
156	アメリア、鈴を振る 教室Bの方から生徒やってくる （ラビニア、ジェシー以外）		
157	ラビニア、ジェシー来る 後から馳けてくるガートルート 手前へ切れる 院長室から出てくるセーラ ドアしめて		
158	何事か考えるようなセーラ ——間—— ゆっくり振り向くと 左手前に歩き出す　Fr・outして 素早く		

＜Aパート・おわり＞

159	アイロン台の上にベッキーの洋服 服		
160	ベッキー、木靴でトントンと床を踏む ↑PAN・UP 御機嫌に服を眺め回すベッキー		ベッキー(off)「わァ〜……… (off)〜(on)に わだす、こんな立派な服着たのはじめてでッすゥ」
161	ベッキー、嬉しそうにさわったり、腕を上げたり ベッキー 振り返る二人		マリエット「少し、大きいみたいだけど、今度私がつめておいてあげるわ」 ベッキー「すンまッせん」 S・E （（ドア開く）） モーリー「さァさァ〜 ぼやぼやしないで、お嬢様方の教室へ石炭を運ぶんだよ」
162	モーリー、入口の所から		
163	ベッキー、緊張		ベッキー「は、はい……」 モーリー「石炭は余計にくべるんじゃないよ。院長先生に倹約するようにきつく云われてるんだからね」
164	さらに続けるモーリー		
165	緊張度高まる		ベッキー「は、はい」

166	モーリー		モーリー「それから、暖炉の灰を掃除して、床やガラスを磨いて、する仕事は山ほどあるんだからね」
167	言うだけ言って そそくさと右手に切れるモーリー		マリエット「さ、頑張るのよ、ベッキー」 ベッキー「は、はい……」
168	ベッキーの桶を持った ベッキー、石炭を眺めて スコップをとって、いかにも無器用な手つきで石炭にさすが入らない カツンカツンとさそうとするがうまく入らない		
170	ガリガリとコネテ やっと塊りの二つ位がスコップにのる が、上げるとポロッ		
171	ベッキー、がっくり		
172	ピーターが顔をのぞかせる		

173	頑張っているベッキー ついに登って、ガチン、ガチン 始める		
174	ダメだー ヤケになって、スコップを振り かざし		S・E（ガツン）
175	ヒョイと上げるが、石炭はすく えず　アワワ……		
176	声なしで笑うピーター cut尻　おやッ		
177	ベッキー、スコップを放り出し バケツをのせると石炭をひとつ づつ手で入れはじめる		
178	──間── 一歩、前へ出る		
179	ピーター、近づく スコップを持って、片足を上げて		ピーター「俺がやってやるよ」

180	足をかけて、グイッ		
181	スコップの上に山にのった石炭を上げる バケツを床に置くベッキー ザーッと入れる		ピーター「バケツ」 ベッキー「はい、はい」 ピーター「こうやるのさ」
182	ベッキー といって顔の汗をふく その顔に石炭の粉がつく		ベッキー「ありがとう」
183	ピーター、ニヤッと笑う		ピーター「俺、ピーターっていうんだ。なにか判らない事があったら、何でも聞いてくれていいんだぜ」
184	仕事をしながら		ベッキー「あのォーひとつ、聞きたいことがあるんスけど…」
185	作業しながら		ピーター「ああ、なんでも聞いてくれよ」
186	ベッキー		ベッキー「さっき、玄関で、わだすに親切にして下すったきれいなお嬢様、どなた様スか」

187	ピーター、作業続け乍ら		ピーター「ああ、俺の恩人セーラお嬢様さ」 ベッキー「恩人……？」 ピーター「あのお嬢様のお蔭げで、俺はお嬢様専用の off 御着になれたって訳よ」
188	ベッキー		ベッキー「ンまァ……」
189	石炭入って		
190	ピーター、スコップを石炭箱に戻すと右手に歩き乍ら得意気に喋る（やゝOVERな芝居でー）		ピーター「優しくて……親切で……きれいで……俺が馬車におのせして町を行くと、みんなお嬢様を振りかえるんだぜ、それが俺の自慢さ」
191	ピーター、手をヒラヒラやって		ベッキー「わだす…なんのお礼を云うい とまもなくて……」 ピーター「大丈夫だよ、
192	ピーター下に気付いて		〜 俺から伝えといてやるから……おっと、お嬢様の教室が冷えないうちに石炭を頼むぜ」
193	と、バケツに手をかける		ベッキー「は、はい……」

194	部屋を出ていくベッキー		
196	ベッキー、一段一段上がる 立ち止まって　ふーッ、顔の汗 をふく		
198	更に上がるベッキー（一歩一歩 時間かけて……）		
199	FOLLOW　途中止メのFO LLOW		
200	ベッキー、上がっていく		
202	シーザーのフーッという		
203	ベッキー 桶の落ちる音　どどど…… Fr・out后二秒位カラで		ベッキー「キャーッ」 S・E（ドタ、ガタ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜）
204	のっそりと前へ出て下を見る シーザー		

205	見おろすシーザー	
206	腰をさすっているベッキー 下から来る ピーターとマリエットも来る モーリー、怒鳴る	モーリー「まァ……なんてことしてくれたんだろうね」 モーリー「なにをしてるんだよ、さっさとお拾い！」
208	ベッキー と桶を起して石炭を拾い始める	ベッキー「は、はい……」
209	暫し間 と前へ出る そのエリ首つかまれる バタバタと戻される	ピーター「手伝うよ」 モーリー「お待ち！」 ピーター「あッ」 モーリー「やめとくれ余計な手出しは」 ピーター「えッ？」
210	モーリー	モーリー「お前さんは、金持ちのお嬢さんの馬車を動かしてりゃいいんだ。台所のことには
211		off 口を出さないで貰うよ」

	ピーターとマリエット顔見合わせる		
212	ベッキー、石炭をいくつかかきあつめて桶に入れる（二度位）		
213	シーザーがホールのところ顔をなで回している耳をピクッとさせてもっそりと起き上がる		
214	シーザー、曲り角のところへ来る		
215	ベッキーが桶を持ってやってくる重そうに上体をそらして昇ってくる　バケツを置いて起き上がる		
216	手を上げて、手をニギッたり、ひらいたりする		
217	手のひらに赤い筋がついている		

218	ベッキー、手に息を吹きかける と　かがんで桶をよいしょッ 身体起して、あーッ		
219	のそのそと来るシーザー		
220	ゴクリ……　ど、どうしょう?!		
221	シーザーくる 一歩、下るベッキー シーザー、止まって　優越感 シーザー、右手に		
222	目で追うベッキー（横眼で）		
223	シーザー、歩いて 壁にコチン、とこける		
224	クスッと笑うベッキー		
225	——間——　Fr・in ベッキー、角を曲ってくる 立ち止まる		S・E（カランカラン〜

226	目パチ 首めぐらして		（止む）） S・E （（ドアの音））
227	ドアが開いて、ミンチン先生が 出て来る		
228	ハッとなるベッキー 慌てて、廊下寄りにし頭を下げ る　ミンチン先生、通りすぎて いく　堅くなっているベッキー out して、ちらりとミンチン先生 の方を見る		
229	ミンチン先生、院長室へ入って いく		
230	ホッと、首だけ振り返る、その とたん　また、顔戻してうつむ く		off 「（ラビニア達の話し声）」
231	ラビニア・ガートルート・ジェ シーの三人　C#227同ポ兼用		（ガヤガヤ）

232	ベッキーに気付いて、立ち止まる	
233	ジロッと軽蔑の視線を送り ガートルートとジェシー、クスクス笑い出す	
234		off （（笑い声　それが段々遠去り））
235	三人、階段の方へ歩いていく	
236	年少組　セーラのまわりにかたまっている	ロッティ「ね、ねぇ、シンデレラのお話の続きして！」
237	ロッティ、こっくり 他の子もこっくり	セーラ「そうね、シンデレラのお母さんがなくなって、新しいお母さんが二人の娘を連れて来た所までだったわね」 ロッティ「うん」
238	アーメンガードも期待して見る	

239	セーラ、話を想い浮べるように ハッとして見る		セーラ「えーと……」 S・E（（ドアの音））
240	ドアのところに桶を置いて ドア閉めると 桶をもって、右手に		
241	ベッキー、チラッと見て立ち止 まると、ペコッとおじぎすると 左手に		
242	ベッキーを追う		
243	奥へ行くベッキー		
244	セーラ、横目を向けている ハッと向き直る		ロッティ「ね、ね、早くしてェ」 セーラ「ええ……新しいお母さんは、シンデ レラのきれいな服をはぎとり (off) 娘達に着せてしまいました……そして、 ～ シンデレラには古い仕事着を着せ、木 で出来た靴をはかせ、取り上げたベッ
245			
246			

247	ベッキー、桶から暖炉に石炭を入れている　ユックリとT・U 尻止めなし　照り返し		(off) トの代りに～ 炉ばたの灰の中に寝かせたのです。 だから、シンデレラはいつも髪の毛から体中まで灰だらけでした。 ～
248	ハッとして、顔を上げる（小さく）		(off) シンデレラのシンデというのはドイツ語で灰の事なのね。 ～
249	照り返し		だから、シンデレラという名前は灰かぶり娘と云う意味で新しいお母さんや ～
250			お姉さん達がつけた仇名だったの。 ～
251	じっと聞くベッキー　T・U		(off) 可哀そうなシンデレラは、台所で一日中、辛い仕事をしなければなりませんでした……」
	O・L		
252	絵本的な絵で止メ 水を運ぶシンデレラ		セーラの声(off)「朝は暗いうちに起きて、水を運び……
253	這いつくばって、イロリに火をつけている絵		火をたきつけて、みんなが起きるまでに、 ←

254	朝食の仕度 止		料理の仕度をしておかなければなりません。
255	姉・ベッドで欠伸している 廊下掃除のシンデレラ		〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
256	もう一人の姉・化粧中 シンデレラ掃除		〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
257	河で洗濯の絵 岩などに雪積っている		今度は冷たい川の水で山のような洗濯をするのです。
258	手に息を吹きかける感じのポーズ		〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
259	火のないイロリの脇に倒れるように寝ているシンデレラ T・B		そして、夜遅く、やっと仕事を終ったシンデレラはまた、炉ばたの灰の中で疲れ切った身体をやすめるしかなかったのです」
	O・L		
260	聞いているベッキー ハッと顔を上げて（炎の照り返し）振り向く		S・E （（ドアの音））

261	ラビニア、ガードルート・ジェシーが来る（手前に）	
262	三人の方を見つめて ベッキー、慌てて桶を摑んで立ち上がると、歩き出す	
263	手前に来て止まる三人の前を、顔伏せて、通り過ぎるベッキー	
264	ベッキー・ドアを開けて出ていく	
265	見送るセーラ・ラビニア達	ラビニア「あの子、あなたのおとぎ話を盗み聞きしてたわ」 セーラ「ええ、知っていたわ……私も、そのつもりでお話していたの」 ラビニア「まァ、呆れた。あなたのお母様は、どうか知らないけど、私のお母様ならあんな子に話を聞かせるなんて、お許しになる筈ないわ」
266	ラビニア ツンと	
267	セーラ	セーラ「でも私のお母様は、そんな事、気に

	268	269	270	271	272	273	274
	ラビニア怒る	ロッティ、ペタッとセーラにくっついて　ロッティを微笑して見守るセーラ	呆れ顔でラビニア、ガートルート、ジェシーと顔合わせる	ラビニア、前へ	ラビニアとセーラ	アーメンガード、ハラハラした顔付きで見つめる	セーラ、立ち上がる
なさらないと思うわ。お話はみんなに聞いてもらう方がいい (off) と御存知の筈ですもの」	ラビニア「まァあなたのお母様はとうに亡くなっているんでしょ。どうしてそんなことが云えるの」	ロッティ「セーラのママはなんでも知ってるのよ、私のママと一緒に天国にいて、いつも私達の事を見守っていてくれるんだって、セーラが話してくれたわ」		ラビニア「セーラ、あなたはとうとうロッティを丸めこんだのね。でも天国をおとぎ話にするなんて、ミンチン先生が聞いたらどうお思いになるかしらね」		(off)	セーラ「告げ口なさるならどうぞ……でも私はおとぎ話なんかじゃなくて天国を信

	ロッティに		じているのよ。行きましょうロッティ・ アーメンガード」
275	セーラ・ロッティを前にドアの 方へ　手前のアーメンガードも 立って続く		
276	いまいましそうに見送るラビニ ア		
277	ランプに灯りが入っている 夜　外は暗い		
278	スープ鍋　湯気が立って		
279	ジェームス・スープ鍋をかきま わし小皿に・味見をして・頷く		
280	ベッキー・テーブルの脇にいる ジェームス・鍋を持ってFr・in テーブルに鍋置く		ジェームス「さ、運んだ……熱いからって手離 すんじゃねえぞ」 ベッキー「は、はい……」

281	ベッキー、とってにさわる あちッ！手をぶらぶらと振る		
282	ベッキーの手、エプロンの下を 持ち上げる		
283	ベッキー、エプロンで摑む （奥の出口の方へ）向うところ まで		
284	ソロリ、ソロリと歩いてくる ベッキー（重そうである）		
285	食堂　一同 手を組んでお祈り		
286	目を閉じているセーラ（口パク あり）		
287	ダイアナ、ジェニファ、セーラ		
288	ベッキー、入ってくる cut 尻立ち止まる		

289	ベッキーの泣き顔を我慢している チョットユルメテ		
290	前へ出ようとする足		
291	289Kように鍋を突き出すベッキーの手		
292	床に落ちる鍋　スプこぼれて		S・E（　　）
293	ハッと顔上げるセーラ		「キャー！（誰かの声　クリステル、ラビニア）」
294	ロッティ、スーザンも		
295	他のものもびっくりして見る 見下ろしていたベッキー、折れるようにひざまつき鍋に手をかける、茫然となる		
296	鍋とこぼれたスープを見つめて 泣き出しそうな顔のベッキー 振り返る		S・E　（ドタドタ） ジェームス(off)「こいつ！
	A・C		←

297	A・C ベッキー、哀願する モーリー、ベッキーの腕をとってひっぱる		折角作ったスープ、なんてことしやがるんだ！」 ベッキー「お、お許しおゆるしを……」 モーリー「早く片付けるんだよ、おいで」
298	最后のジェームス出て、戸をしめる		
299	床にこぼれたスープ		
300	見送るミンチン先生達		セーラ(off)「院長先生!!」
301	A・C セーラ、立ち上がる		セーラ「私、スープは頂かなくても我慢出来ます。ですから、あの子が叱られないようにして下さい」
302	ミンチン先生、意外！		ロッティ(off)「私も我慢する」
303	ロッティ、立っている 隣のスーザンも立つ		
304	アーメンガード立つ ジェニファ、ダイアナ、ドルシ		アーメンガード「私も……」

	アと立つ		
305	ラビニア面白くない 立っている三人ラビニアを見る		
306	立っている 見廻すミンチン先生		
307	ラビニア、渋々立つ つられて、ジェシー・ガートルー トも立つ		
306	全員立っている		
307	ミンチン先生、見廻して吐息 アメリアほっと		ミンチン先生「………判りました……」
308	笑みを セーラもほっとする		
309	女学院　表 窓の明りはもう消えている ゆれる木の梢		

310	皿の洗った桶に水がザーッ		
311	桶を戻すベッキー、洗い始める		
312	もくもくと洗うベッキー 二、三度やって、手を止めて 扉開く　ビクッ ベッキー、仕事続ける モーリー、台詞と同時に（Fr・in）立ち去る		モーリー「さァさァ、もたもたしないで早く洗っておしまい……終ったらアイロン掛け、明日の朝は五時に起きて貰うからね」 ベッキー「は、はい……」
313	カーテンの隙間から、わずか明りがこぼれる　セーラ寝室 ねつけないでいる		
314	セーラ、考え込む		
315	洗い場の食器置場に皿を運んで 皿を置くベッキー		
316	ロッティ、眠っている		
317	同ポジ　ベッキー、皿洗っている		

318	319	321	322	323	324
眠っているラビニア	アイロンをかけているベッキー 思わず出る欠伸を嚙み殺すベッキー	特別室 暖炉の上の時計十二時を回っている 暗い中 T・B エミリーを見つめているセーラ	階段 ベッキーの足↘Fr・in 一段 そして一歩 もう一歩 ゆっくりと	階段上がるベッキー よいしょ、持ち直し	エミリーを見ていたセーラ 足音に顔上げる T・U 尻止めなし
					S・E （（足音））

325	廊下を行くベッキー 扉の前に行き荷物をおいて扉を あける　手前のセーラの扉があ く		
326	セーラ見る		
327	ベッキー、カバンを持ち 中に　ドアしまる		S・E　（（木グッの音））
328	T・Uして F・O		セーラⓂ「可哀想な子……私と年はいくつも違 わないのに……」

〈おわり〉